

保護回復事業計画評価検証シート

- 1 保護回復事業計画 対象種名 ササユリ
- 2 計画策定年度(評価基準年度) 平成 22 年度(2010 年度)
- 3 保護回復事業計画の評価年度 平成 29 年度(2017 年度)

4 計画の概要

(1) 現計画における課題

- ①自生地の保護・管理：里山に人の手が入らなくなったことによる適した環境の減少
- ②採取防止及び普及啓発：園芸目的の球根盗掘、鑑賞目的の地上部採取による個体数の減少
- ③野生鳥獣による食害対策：シカ、イノシシ、サルによる食害があるとされているが、実態が不明
- ④生育状況、生育環境調査：生態や生育適地について不明な部分がある
- ⑤生育地の管理手法：多くに団体により様々な管理がされているが、適切な管理手法を確立すべき
- ⑥保護活動の広がり：保護団体相互の連携、情報交換が行われているのは下伊那のみ

(2) 現計画の目標・取組事項

- ◆ 目標
 - ・生育地や個体群を現状以上に減少させないことを目標とする。
- ◆ 取組事項
 - ①生育環境整備の推進
生育環境を整えるため、間伐や草刈りの実施
 - ②監視活動及び普及啓発活動の推進
盗掘防止のための看板設置や監視活動、地域全体で守る意識を醸成するための普及啓発活動
 - ③情報収集とモニタリング
モニタリング調査と播種等による生態調査からの生育適地の分析・把握、野生鳥獣被害の実態把握
 - ④管理手法の作成
各団体が効率的に保護管理を行うためのガイドライン作成
 - ⑤保護活動団体のネットワーク化
各団体が情報共有し、連携した保全・回復が推進されるよう、団体のネットワーク化
 - ⑥地域住民による保全体制の確立
ササユリをはじめとした里山の自然環境の保全のため、地域全体の意識醸成、里山整備を促進する利用の仕組みや体制づくり

5 計画策定以降の対象種の動向

指 標				動向
①株数の増減	増えた 4箇所	同程度で維持 3箇所	減った 8箇所	↓
②管理の活発さ	活発になった 2箇所	同程度で維持 10箇所	衰退した 3箇所	→
③活動の開始、停止	開始 1か所	停止 2か所		↘
補 足 事 項	・県内各地の生育地で保護活動が行われているが、そのうち16カ所の代表的な1名にアンケート(別紙)を送付。回答のあった15カ所の回答を集計して①及び②の指標とした。 ・①は「平成22年頃と比べて、近年の株数は増減していますか。」の問いに対する回答。多くの生息地では株数(開花個体数)を記録していないため、単に増えたか減ったか等を尋ねている。 ・②は「平成22年頃と比べて、頻度や人数の面で、活動内容に変化はありましたか。」の問いに対する回答。 ・③の「停止」とは、平成22年時点では管理されていたものの、評価時点には活動者が不在となった生育地。(関係者へのアンケートや聴き取り等により把握できた事例のみ。)			

矢印凡例 ↑ 増加 ↗ 微増 → 横ばい ↘ 微減 ↓ 減少

6 計画策定以降の対象種の動向

(1) 対象種の動向が悪化につながった事例

	確認者	事例の概要	個体数			生息環境			危惧要因		
			増	±	減	改	±	悪	改	±	悪
	団体	イノシシによるものと思われる食害(H23) ネズミによるものと思われる食害(H22)			○						
	団体	盗掘またはイノシシ食害と思われる被害(H29)			○						
	団体	上層木の発達による日照の減少						○			
	団体	活動メンバーの減少、高齢化									○
	公共団体等	公共事業に伴う移植 (事後の動向不明のため、評価未定)									
	団体	保護活動や維持管理の停止(2生育地)									○
		件数計	0	0	2	0	0	1	0	0	2

(2) 対象種の保護回復に向けた取組の実施状況と評価

事例No.	実施者	事例の概要	個体数			生息環境			危惧要因		
			増	±	減	改	±	悪	改	±	悪
	地事	南信州希少野生植物保護対策会議の開催								○	
	環保研	市民講座							○		
	大学市	観察学習会							○		
	県	保護回復事業計画に関する研修会・意見交換							○		
	個人	郷土紙への記事掲載 (南信州地域での現状や課題について)							○		
	地事	ブログ等による保全団体活動や開花状況の発信							○		
	団体	各団体での下刈り等環境維持作業の継続 (生育地によって動向が異なる)		○			○				
	団体	希少野生動植物保護監視員をはじめとした監視活動								○	
	高校団体	種子からの育苗、球根組織培養の試行		○							
	団体	新聞等による保全団体活動や開花状況の発信								○	
	団体	地元と結びつきのある活動							○		
	団体	保護活動の本格化(1生育地)		○		○			○		
		件数計	0	3	0	1	1	0	7	3	0

7 保護回復実行者による取組の自己評価

(1) 評価者 長野県（各地の保護団体にアンケートを実施）

(2) 評価者 取組における特記事項

県内に多くの生育地があり、多くの保護活動者がいるため、そのうち 16 生育地で活動する代表的な方にアンケートを送付し、回答のあった 15 者の意見をとりまとめることで、「保護回復実行者による取組の自己評価」の代わりとした。その結果は別紙のとおり。

(3) 取組のまとめ

項 目	評 価	コ メ ン ト
取組の成果		
取組で苦勞した点		
取組の中で明らかとなった問題点・課題		
問題点・課題への対応策		

評価凡例 ◎：十分 ○：適当 △：やや不足 ×：不十分

(4) 計画継続・終了に関する意見

意 見	
-----	--

8 保護回復事業計画策定者による自己評価

(1) 評価者 長 野 県

(2) 評価における特記事項

ササユリは県内各地に生育し、各地で保全に関する活動が実施されているが、ここでは各取組の横断的な評価を示した。

(3) 取組に関する評価

① 取組内容の質・量の評価

項 目	評価	コ メ ン ト
取組の方法や質は適切か	△	計画事項（①生育環境整備の推進、②監視活動及び普及啓発活動の推進、③情報収集とモニタリング、④管理手法の作成、⑤保護活動団体のネットワーク化、⑥地域住民による保全体制の確立）について、①②に関しては活動が継続され個体数増加に繋がった生息地もあるが、取組があっても環境が不適になりつつある生育地や、盗掘被害もしくは食害を受けた生育地もある。 ⑤に関して、当計画に関する研修や意見交換会は、全県規模での情報交換のきっかけとなったが、継続性や工夫を求める声がある。
取組内容は量的に十分か	×	株数が増加している生育地では質、量ともに適切といえるが、株数が減少している生育地の方が多く、活動が衰退している箇所もある。⑥に関して、いくつかの生育地では地元住民や学校と協同で取組が行われているが、活動に拡がりの無い箇所も多く、不十分と判断した。また、④に関して、依然各地域でそれぞれの管理手法をとっており、取組は進んでいない。

評価凡例 ◎：十分 ○：適当 △：やや不足 ×：不十分

② 種の保全との結びつきに対する評価

項 目	評価	コ メ ン ト
プロセス	○	上記のとおり不足している部分はあるものの、地元等を巻き込んだ保護活動が継続されている生育地については、個体数の維持あるいは増加につながっている場合が多い。実施できている取組は種の保全に繋がっているものと判断する。
絶対評価	△	各地で取組が継続されているが、ササユリの生育状況が悪化している箇所もあり、種の保全に至っていない状況である。取組事項①、②、⑥については、各団体の個々の活動努力に負う部分が大きく、その支援が必要と考えられる。

評価凡例 ◎：十分 ○：適当 △：やや不足 ×：不十分

③ 保護回復事業計画に関する評価

計画・取組の成果	「生育地や個体群を現状以上に減少させないこと」が目標であるが、半数の生育地では、株数が減少傾向にある。ササユリが消滅した生育地は確認されていない。
計画・取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各生育地の管理体制の維持に対する支援 ・株消失の原因の特定と対策 ・各団体の活動経過を基にした管理手法の整理・提示 ・団体のネットワーク化とその維持、地域住民による保全体制の強化

評価凡例 ◎：十分 ○：適当 △：やや不足 ×：不十分

④ 計画継続・終了に関する意見

意 見	計画策定以降、個々の団体の努力により、今のところササユリの生育地の消失は確認されていないものの、メンバーの高齢化や予算不足による活動衰退の懸念があり、各地域の管理体制の維持が大きな課題である。計画継続とし、活動者への何らかの支援を検討すべき。
-----	---

9 小委員会による取組・評価の検証

(1) 検証者 長野県希少野生動植物保護対策専門委員会 植物専門小委員会

(2) 計画・取組に関する検証

検討・判定日：平成 30 年 3 月 8 日

項目	評価	意見・付記事項
取組の方法や質は適切か	△	場所によって差が大きいため、やや不足と判断する。 適切な方法で管理が継続されている生育地においては個体数の増あるいは維持に繋がっているものと思われる。
取組内容は量的に十分か	×	計画策定以降、保全団体の活動が活性化した箇所は少なく、取組にも関わらず個体数が減少している箇所や、活動が停止した箇所もある。 また、③（情報収集とモニタリング）、④（管理手法の作成）の取組も進んでいないことから不十分と判断する。
種の保全に対するプロセス	○	計画事項の①（生育環境整備の推進）、②（監視活動及び普及啓発活動の推進）、⑥（地域住民による保全体制の確立）が適切に実施されている生育地では個体数が維持されていることから、適当と判断する。 ただし、活動が衰退していたり、取組に関わらず結果として個体数が減少している箇所がある。
種の保全に対する絶対評価	△	結果として、生育状況が悪化している箇所の方が多いため、やや不足と判断する。 各地の活動を補助する取組が不足していると思われる。
計画継続に関する意見	計画終了 ・ 計画見直し ・ 計画継続 (部分的な修正を含む)	
計画継続における配慮事項その他	<p>ササユリの個体数を維持するには、人の手による継続的な環境の維持が不可欠である。団体によっては高齢化による活動の衰退など、今後の活動の継続が不安視されているため、体制の強化が必要と思われる。機運を盛り上げるような支援が望まれる。</p> <p>その一環として、③（情報収集とモニタリング）、④（管理手法の作成）の取組の推進を求める。特に、大規模な個体消失が認識された際に、その原因が野生鳥獣による食害なのか人による盗掘なのかははっきりしない事例が複数あり、その後の対策もとれていないことについては、体制を整えて、早急に対応すべき課題である。</p> <p>ただし、特定の種だけに着目した活動ではなく、里山の生態系自体を保全することが重要であるため、その共通認識のもとで活動が促進されるよう留意すること。</p>	

評価凡例

◎：十分

○：適当

△：やや不足

×：不十分

10 専門委員会による保護回復事業計画の継続に関する検討・判定

(1) 検証者 長野県希少野生動植物保護対策専門委員会

(2) 自己評価と検証結果に関する検討

検討・判定日：平成 30 年 3 月 16 日

項目	評価	意見・付記事項
自己評価 検証結果 の検討	○	長野県及び保護回復実行者が実施した自己評価並びに植物専門小委員会が実施した検証の結果について、その内容を適正と認める。
取組方法・質	△	現地で行われている活動については、方法としては適当である。 実施されている場所については成果が出ているが、そうでない場所もある。
取組内容の量	×	活動が衰退している場所や、活動に拡がりが見られない箇所もある。 計画に記載された取組が十分に実施されておらず、現地の活動に対する支援体制が整っていない。
種の保全に 対する プロセス	○	計画に記載された各取組は種の保全につながるものと考えられる。 しかし、現地の活動支援につながる取組が不十分なことから、良い成果がでていないと判断する。
種の保全に 対する 絶対評価	△	保護団体による現場での活動により成果が出ている場所もあるが、全体的には状況は悪化している。
計画継続に おける 配慮事項 その他		<p>一部の生育地では地元関係者の努力により、個体群の維持あるいは個体数増加につながっているものの、全体的には生育状況が悪化している箇所の方が多く、現地の保全活動が停止してしまっている例もあることから、今後とも取組の改善・強化は必要である。</p> <p>専門委員会としては次の意見を付して「計画継続」とするので、種の動向の実質的な改善に向け、引き続き保全活動に取り組まれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地の保護活動の支援につながる取組③（情報収集とモニタリング）、④（管理手法の作成）、⑤（保護活動団体のネットワーク化）を効果的に進める工夫が必要。 ・専門小委員会の意見に今後対応されたい。
計画継続に 関する意見		<p>計画終了・計画見直し・ 計画継続 (部分的な修正を含む)</p>

評価凡例

◎：十分

○：適当

△：やや不足

×：不十分

11 保護回復事業計画の評価・検証体制

(1) 計画継続に関する検討・判定（50音順、敬称略）

長野県希少野生動植物保護対策専門委員会 委員

市川哲生、土田勝義、富岡弘一郎、中野圭一、中村浩志、中村寛志、
福江佑子、藤田卓、藤山静雄、元島清人

(2) 計画・取組の検証（50音順、敬称略）

長野県希少野生動植物保護対策専門委員会 植物専門小委員会 委員

土田勝義、元島清人

(3) 取組の自己評価（敬称略）

長野県環境保全研究所 尾関雅章・高野宏平

長野県自然保護課 宮原 登・山崎昭典・畑中健一郎・二本松裕太

12 保全団体の概要

評価検証に当たり、県内各地で保護活動を行っている団体、県希少野生動植物保護監視員、県自然保護レンジャー等多くの方から情報提供いただいた。また、アンケートに関しては、下記 15 生育地で活動する方々にご協力いただいた。

上伊那地域	1 生育地
南信州地域	8 生育地
木曾地域	1 生育地
松本地域	1 生育地
北アルプス地域	1 生育地
北信地域	3 生育地

平成 30 年 3 月 16 日現在

ササユリについては県内各地で保護活動が続けられているが、飯田下伊那地域で特に活発である。下記の3箇所に関して、活動者から状況を聞き取ったところ、いずれの箇所も、草刈り等の環境整備や看板による啓発を継続していたが、その動向は三者三様であった。

下伊那地域では、多くの自生地であえて生育情報をオープンにし、場合によっては人を呼び込むことで、盗掘防止にもなり、ササユリを含む里山の自然環境の保護意識の普及啓発に繋がっていると思われる。



飯田市北方： 歩道整備され、杭で個体管理。右写真はササユリを見やすいように草刈り頻度が多い箇所。上層木が大きくなっており、日陰が濃くなったことでここ数年は減少傾向。(H29.8.2現地調査)



飯田市伊賀良 歩道整備され、竹杭とテープで管理。草刈りは年に3回実施。上層木はなく、非常に明るい。計画策定以降、増加傾向にある。(H29.8.2現地調査)



高森町山吹： 下刈り以外の作業はしていないが林床は明るい。H29.6月末に数百株規模の球根が消失。原因は特定できないが、ピンポイントで掘り取られた跡が確認できる。(H29.8.2現地調査)

自生のササユリ生育地で活動している代表的な1名にアンケートを実施した。

15生育地から回答があり、その結果を以下にまとめる。

① 株数の増減について

増えた	同程度で維持	減った	確認できなくなった
4	3	8	0

【原因として考えられること】

(+) 草刈りの効果 パトロールの強化 侵入防止柵	(-) 上層木による日当たりの変化 イノシシ、ニホンジカの食害 食害か盗掘か不明
---------------------------------	--

② 活動の活発さについて

活発になった	同程度で維持	衰退した	活動を行わなくなった
2	10	3	0

【原因として考えられること】

(+) 地区活動の一環としたこと 住民の理解 若者や定年した住民の勧誘 児童との協同 減少傾向に気付いたこと	(-) 高齢化 予算不足 個別の事情 活動が地味
--	-----------------------------------

③ 活動主体

団体として活動	単独で活動(監視員、レンジャー含む)
10	5

④ 活動の対象について

ササユリのみ	ササユリを含む数種	一帯の動植物全体	無回答
2	5	7	1

⑤ 生育地の公表状況について

積極的に公表	秘匿しているものではない	原則非公表
3	11	1

⑥ 生息環境の整備に関すること

・草刈り 15生育地のうち14カ所で継続して実施されている。回数や時期は様々。

⑦ 監視活動・普及啓発活動に関すること

・監視活動 15生育地のうち14カ所で継続されている。時期や頻度は様々。
 ・看板設置 15生育地のうち11カ所で設置。かなり老朽化している箇所もある。
 ・観察会 15生育地のうち8カ所で実施。
 ・誘客 15生育地のうち8カ所で実施。登り旗設置、パンフレット作製など。
 ・広報 15生育地のうち7カ所で実施。地元紙、地域回覧など。

⑧ 情報収集とモニタリング

- ・播種に関すること 5カ所で実施をしているようだが、その方法や効果の検証に至っていない。
- ・食害に関すること 各地で、イノシシ、サル、ノネズミなどの食害と思われる被害が発生しているが盗掘の可能性も含め、原因の特定に至っていない事例が多い。
捕獲推進、電柵の設置が行われた箇所もあるが、12カ所は対策なし。

⑨ 保護団体のネットワーク化

飯田地域内で継続的に実施された南信州希少野生植物保護対策会議、H23年度に実施されたササユリ保護回復事業計画に関する研修会に対する意見として、以下の意見があった。

- ・情報交換できてよかった。保護の仕方などいろいろ参考になった。
- ・情報交換できたが、拡がりはない。私たちの活動に変化はない。
- ・このところ具体的な動きがない。会議は継続が大切と思う。もう一工夫が必要。
- ・情報不足で関知していない

なお、研修会時に実施したアンケートでは、団体間の意見交換に関する回答(選択式)は以下の通り。
参考になった(14件)、普通(7件)、参考にならなかった(2件)

⑩ 地域住民による保全体制の確立

15生育地のうち6カ所では地域住民を巻き込んだ活動が定着している。

- ・財産区や地元区民によるイベントや管理作業が恒例化している例 4事例
- ・地元の小中学校との観察会や作業が恒例化している例 4事例(重複あり)
(1生育地においては以前地元小学校と共に種子散布等していたが、現在は活動なし)

⑪ 今後の活動の継続性について

予算不足や会員の高齢化により、継続性に不安がある生育地は8箇所

特に、生育地へのアクセスが悪い箇所については草刈り等の労働がかなりの負担になっている様子

⑫ 保護回復事業計画の策定の効果について

「参考になった」、「保護に力が入った」といった肯定的な回答は4件

「特に感じない」、「参考にならなかった」、「知らなかった」、「無回答」といった回答は11件

⑬ 条例による規制の浸透

保護活動により、浸透したことを感じているという旨の回答は4件のみ

その他、以下のような意見があった。

- ・年1回くらいは全県的なPRが必要
- ・地元より、県外者への告知が必要
- ・盗掘するのは商売でやっている人間だと思う

⑭ その他意見

- ・グリーンロープ等による保護、看板設置を進めるべき
- ・ほかの生育地情報を教えてほしい
- ・山の手入れができればよい(上層木の伐倒が困難)
- ・間伐で日当たりが良くなると株が増える